

# 高野新聞

Vol.119



たかの  
**高野たけし**

**無所属 51歳**

逗子市議会議員（6期）

- ・総務常任委員会委員
- ・議会運営委員会委員
- ・都市計画審議会委員

## 高野たけしの活動報告

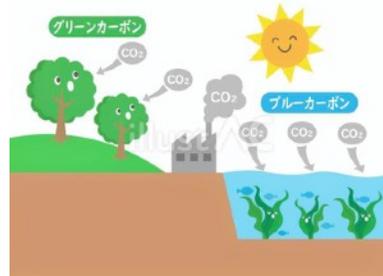
～住みやすいまちづくりに向けて～

市民の皆様から頂いたご意見・ご要望を踏まえて行った令和5年第4回定例会における一般質問の一部をご報告いたします。

### 力を合わせてブルーカーボン生態系を再生!!

先日、三浦半島の4市1町（逗子市・横須賀市・鎌倉市・三浦市・葉山町）と日本テレビが連携し、ブルーカーボンの取り組みを進めていくとの発表がありました。世界的にも地球温暖化対策が喫緊の課題となっている中、浅海域のブルーカーボン生態系の保全・再生・造成は大気中CO2濃度を減少させ気候変動を緩和する手段として注目されているところであり、今回の取り組みにおいても大いに期待されます。

そこで、本市ではどのような形でこのプロジェクトを進めていくのか質したところ、市長からは、日本テレビと三浦半島4市1町との取り組み内容や連携体制についてはまだ検討中であるが、一方で各市町がそれぞれの海洋環境に合わせた独自の事業を進めながら、情報共有や意見交換を通じて同様の目的に向かっていくことも必要であると考えます。また、地域で活動している団体や地元企業、漁業組合とも協力し、藻場の再生などに力を入れていきたいとの回答がありました。



政治資金の残り **22,759円**

（令和5年10月～11月の内訳）

支出・・・ポスター掲示用両面テープ 4,226円

### 電線類の地中化で歩行空間を確保!!

なぎさ通りは横須賀軍港水道の一部で、横須賀市やJR東日本等が土地所有者となっています。現在、逗子市は舗装と側溝を占有する道路維持管理者となっていますが、今年度中の道路の認定（道路法に規定する行政行為を経た道路）に向け土地所有者と交渉を進めているとのこと。

そこで、歩行者等の安全確保の観点から電線類地中化の再検討を要望したところ、道路の認定と合わせて横須賀市と協議を行っており、課題等を整理しながら事業化に向け進めていきたいとの考えが市長より披瀝されたところです。

### 新たな取り組みで地域防災力を強化!!

地区防災拠点での避難所運営訓練が今年度初めて各小学校区で実施されました。これまで行ってきた初期消火訓練や救急訓練、避難者受付訓練などに加え、小学校区によってはWEBを用いた情報共有訓練、安否確認訓練など、新たな訓練内容も試みられたところです。それぞれの避難所運営訓練を通じては、共助の形を再認識するとともに、地域防災体制のあり方を改めて考える機会にもなったことと思います。

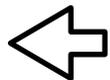
そこで、各小学校区で行われた訓練、特に新たな取り組みに関してはその内容を精査し、他の小学校区にも情報やノウハウを共有することで地域防災力の強化を図るべき旨提言したところ、市長からは、各地域それぞれの特性に合わせる形で展開していきたいとの回答がありました。

# ～ 総務常任委員会・行政視察レポート ～

## Smart Wellness City 構想

新潟県見附市では、平成15年から将来の人口減少・高齢化社会を見据え、食生活・生きがい・運動・健診を柱とした健康づくりプランを進めていたものの、市民の参加率が伸び悩んでいたことから、平成21年より『健幸』を軸としたSmart Wellness Cityの構築に舵を切ったとのこと。住んでいるだけで健康で幸せになれるまちをテーマに、施設整備や公共交通などの都市政策を進め、コンパクトシティの形成を図っています。魅力ある施設を市街地に集約し、それらと各地域をつなぐ公共交通網を整備するなど(市内97.5%の自宅が300m以内に公共交通機関を有する)、人口減少下でも持続するまちづくりを進めてきたそうです。現在は多くの市民がまちづくりに参加するようになり、医療費の抑制や介護認定率の低さにおいても効果が現れてきたようです。

逗子市でも現在策定に向け議論を重ねている立地適正化計画の方向性、さらには市民ニーズの高い地域交通の拡充において参考にすべき先進事例を学ばせて頂きました。



市内の移動時にも利用させていただいた見附市のコミュニティバス。

民間路線バスの廃線エリアをカバーするコミュニティバス。運賃は一律100円(免許返納者は50円、中学生以下の子どもは無料)で、市民の足として(利用者数は年間17～18万人)必要不可欠なものとなっています。

## DXの推進で職員の業務量を削減

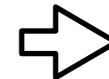
新潟県長岡市では、従前にとらわれず市民生活の向上と産業の活性化を実現するための手段として、DX・新技術の導入や働き方改革に着手。今年度はDX推進部を創設し、10月から窓口キャッシュレス決済を導入、年明け1月中旬頃からは書かない窓口(スマート窓口サービス)を開始する予定とのこと。

また、職場でのOJTによる職員のITリテラシーの向上に努めると共に各課にDX担当者を任命し、新しい発想を積極的に取り入れながら業務の改善・再構築に取り組んでいます。

長岡市のこれまでの取り組みで特筆すべきは、RPA・AI-OCRをいち早く導入した事です。平成30年度にRPA(業務の処理手順を登録するだけで定型作業を自動処理するソフトウェアで、処理件数が多い税務・人事・給与事務に適している)を9課36業務に試行導入し、2,028時間の業務削減を実現。令和2年度にはAI-OCR(従来のOCR技術に加えてAI技術を活用し、コンピュータ自らが機械学習することで、紙文書に書かれた手書きの文字や印刷された文字の認識率を高めた高度な文字認識技術)も本格導入。令和4年度にはRPA、AI-OCR合わせて100業務に実装し、18,600時間分の業務削減につながったとのこと。

長岡市の取り組みを参考に、本市の行政業務の効率化につなげていければと考えています。

市役所が入るアオーレ長岡は建築家の隈研吾氏が設計した複合施設で、憩いの場所として市民に親しまれています。



## あなたの声を高野たけしへ

Tel / Fax:046-871-7368 E-mail:takano\_zushi@yahoo.co.jp

高野たけしの活動  
ブログはこちらから

